

石狩市厚田多機能拠点形成ビジョンに 寄せられた意見と検討結果について

【パブリックコメント実施期間】 平成28年2月1日（月）から平成28年2月29日（月）まで

【担当部局】 企画経済部 渉外調整担当

【意見提出者】 3人

【意見件数】 8件

【意見への対応】	採用	： 意見に基づき原案を修正するもの	2件
	不採用	： 意見を反映しないもの	1件
	記載済	： 既に原案に盛り込まれているもの	0件
	参考	： 原案に盛り込めないが今後参考とするもの	1件
	その他	： ご質問・ご意見として伺うもの	4件

【意見の検討経過】 平成28年3月1日～3月9日 当課及び関係部局において意見の検討及び検討結果（案）の作成
平成28年3月15日 関係部局に合議のうえ、市長決裁にて最終決定

石狩市厚田多機能拠点形成ビジョンに対する意見とその検討結果

No.	意見の要旨	検討結果	検討内容
1	<p>今後増加することが予想される入場者、車輛の受け入れについて、現在の計画ではすぐに不足するのではないかと大変心配しております。</p> <p>地域を発展させて行く為の基盤をしっかり作っておくことが肝要であり、予算並びに駐車場スペースの確保に特段の配慮をお願いします。</p>	その他	<p>計画敷地となっている厚田公園は起伏が激しく、駐車場、広場、道の駅本体などの施設整備には、土地を平坦にするための大規模な造成工事が必要となります。</p> <p>現在の駐車場計画は、処分可能な残土量やこれらに要する費用・工期を勘案し、出来るだけ既存の平地を活かすものとなっておりますが、将来的な需要に備え、隣接用地の活用も視野に入れて検討します。</p>
2	<p>道の駅を地域の活性化に役立てるには、遠回りのようだが地域産業の振興を先行しなければならない。</p> <p>2年後のオープンは目前だが、農林水産業の六次化を進めることが急務である。</p>	採用	<p>厚田・浜益地区の地場産品の供給力強化に向けて、6次産業化の促進など、道の駅事業と平行して積極的に取り組んでいきます。</p> <p>※ 地域産業の振興の方針はビジョンに追記します。</p>
3	<p>石狩市民図書館は、「図書館の中に街をつくろう」をコンセプトにして、町の主人公である市民参加で事業が進み、その後15年かけて、本を読む空間からさらに地域の人の交流の場となるような図書館を作り上げた。</p> <p>このようなノウハウを生かして、厚田道の駅を作り上げることが望まれる。</p>	その他	<p>より多くの方が参画して、厚田道の駅を作り上げることが、地域の再生に繋がるものと考えておりますので、平成30年の開設に向け、また開設後においても、両区の両地域協議会や生産者・事業者と積極的に意見交換を重ね、より良い道の駅となるよう取り組んでいきます。</p>
4	<p>2-1(4)①農林業について、望来豚や浜益牛及び馬鈴薯、人参・・・ブロッコリーなどの多品目を生産しているとあるが、具体的な品目とその生産量を表で示し、農作物の生産状況を明確にする必要がある。</p>	参考	<p>ビジョンに具体的なデータは載せておりませんが、ご指摘のとおり、農海作物の品目や生産量の把握は、道の駅の施設規模や事業計画の検討に必要ですので、関係機関から収集の上、生産者との協議など種々の準備作業を進めております。</p>

No.	意見の要旨	検討結果	検討内容
	<p>どのような農畜産物がどのくらい生産しているか把握することで、道の駅の直売所の規模を決めることが出来る。更に直売所での農作物の必要量が算出でき、農産物の有利な生産に反映する事が可能となる。</p>		
5	<p>農業従事者のここ5年間の減少状況から、今後数十年で農家が消滅するような勢いである。漁業者においても農業者と同様な傾向である。</p> <p>新規就農(漁)者を増加させる対策は、厚田・浜益において特に必要で早急に取り組まなければならない。</p>	採用	<p>次代の担い手を育成する観点から、農業では、農業総合支援センターを拠点に、新規就農希望者や農業に興味をもつ方を対象とした相談窓口を開設し、国や市の補助制度（青年就農給付金、農地・住宅の賃貸借、施設園芸用ハウスの助成など）を活用した支援を行うとともに、漁業では、漁業の知識や技術を習得するための研修や北海道漁業就業支援フェア等を活用し、漁協や漁業者が直接漁業に興味のある方と面談を行うなどの取り組みを進めており、今後もより効果的な手法を検討していきます。</p> <p>※ 地域産業の振興の方針はビジョンに追記します。</p>
6	<p>第3章 地域課題の整理に地域の衰退及びその対策が述べられている。P19以降に、道の駅を整備し地域振興の核とするとあるが、道の駅だけで地域の活性がもたらされるものではない。</p> <p>P31の5.1ビジョンの推進方針に、人づくりや事業環境の整備には、財源と時間が必要との記述があるが、消滅しそうな状況から判断すると、適切な対応でないと思われる。著しい過疎地に移り住みたいと思う人がいるだ</p>	不採用	<p>地域の振興は、地域の主体的な関わりとともに継続的な取り組みが必要です。</p> <p>このことから、まずは、地域住民が自らの活動を積み上げ、検討を重ねてきた道の駅の整備と関連するソフト事業の展開を先行的に行い、その進捗や地域の参画状況も見定めながら、長期的な視点で取り組んでいく必要があると考えております。</p>

No.	意見の要旨	検討結果	検討内容
	<p>ろうか、現に厚田・浜益に職場があっても花川や札幌から通勤している人が多いのである。過疎が著しくなると限界集落となり、住む場所としての魅力がなくなること</p> <p>を肝に銘じるべきではないだろうか。</p>		
7	<p>現在、厚田・浜益へは、バスの便が少なく、住んでいる私自身、大変不便を感じています。</p> <p>地域外の人達からも「厚田や浜益は景色がいい」「以前は濃屋山道にもバスで行けたし、夕方に帰って来ることができた。今はバスがないので、行きたくても行けない。」「バスがあったらいいネ」と言われています。</p> <p>地域外から集客しようとするなら、又、本気で移住を促進しようとするなら、きちんと公共交通を整備しなくてはならないと思います。</p>	その他	<p>「北海道中央バス札幌厚田線」は、現況の利用者数では事業者単体での路線維持が困難となっており、国庫補助を受けて維持していることから、利用者増が図られない中での増便は難しい状況にあります。</p> <p>また市単独でのデマンド運行などについては、バスやタクシーが運行されていない交通空白地域のみで可能なものであり、現在の厚田区では幹線バスと経路が重複する路線の運行は認められない状況にあります。</p>
8	<p>資料館の内容について、現在の資料館の内容では、厚田の歴史がわかりません。厚田の有名な人達かもしれませんが、あの人達が厚田を作ってきたわけではないと思います。昔からの本当の意味の「厚田の歴史」を学べる場が必要です。</p> <p>厚田の自然についても加えてほしいです。</p> <p>厚田公園には、どんな動植物がいるのかなど、調査したものがあれば展示してほしいです。</p>	その他	<p>厚田区出身の著名人は、厚田の歴史や文化風土を象徴するものであり、厚田の地域性を理解する上で重要なものと考えております。</p> <p>道の駅に設置される展示施設については、市民はもちろん市外から訪れる方々にも厚田区を中心とする地域の自然、歴史、文化がバランスよく理解されるものになるよう取り組んでまいります。</p>